



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / ゴボウ、夏秋ナス、米、麦、大豆

楠田 傑 (36歳) ・ 晶 (33歳) ・ 隼人 (30歳) さん

(営農地 / 筑前町曾根田)

兄弟3人で露地野菜づくり

《就農のきっかけ》

親の姿を見て就農を意識していた

両親が農業をしていたので、三人とも小さいころから親の姿を見て育ち、また農作業も自然と手伝っていました。だから、「農業は大変!」とわかってはいたけど、三人とも農業高校へ進学しました。長男は、卒業後一旦就農したあと離農しました。次男は中学生のころから就農を意識して高校卒業後すぐに就農しました。そんな兄の姿を見て、三男は農業高校を卒業後、他の品目も勉強したいということで、園芸専門学校で1年学び、就農しました。長男は一度農業を離れて別の仕事をしていたが、父親に続き、平成19年に祖父が亡くなったことをきっかけに「兄弟で力を合わせて農業がしたい」と言って戻ってきました。祖父はとても厳しい人だったそうですが、その祖父の基本的な教えがしっかりと根つき、母親を中心にみんなで力を合わせて頑張っています。

《これまでの過程》

機械化で徐々に規模拡大

母親と兄弟3人で、米、麦、大豆に加え、9月から翌年5月までは冬春ゴボウ、5月～10月は夏秋ナス等の露地野菜を栽培しています。長男の就農を機に始めたゴボウは、栽培を始めて18年になります。当初から部会に加入して技術を習得したので、これまで大きな失敗もなく生産できています。

経営面では、兄弟3人で役割分担をしています。トラクターなどの機械作業は長男と次男、夏秋ナスやゴボウの栽培管理は三男が担当しています。また、部会の会議や講習会には三男が参加し、新技術などを積極的に情報収集しています。3人で相談しながらできるので、喧嘩もするけど、とても心強いそうです。

ゴボウを導入した当初は、播種、マルチ※などほとんど手作業でしたが、今では畝立て、播種、マルチが一度に作業でできる機械を導入したことにより、省力化が図られ、徐々に規模拡大をしてきたそうです。さらに、労力を考えて作型を分散するなどの工夫もしています。

※マルチ・・・草を抑えたり、地温を調節したり、水分を保持するため、ポリエチレンやビニルで土を覆うこと。



プロフィール

■家族構成 / 祖母、母、3兄弟 ■営農年数 / 約18年
■耕作(経営)面積 / 15ha ■販路 / JA共販

《これからの展望》

さらなる規模拡大と新たな品目の検討

現在は露地野菜が中心。露地での農業は天候に左右されてしまうので、将来は雨よけハウスなどの施設栽培も組み合わせ、収益性の向上を図ることも考えているそうです。

また、近所では、高齢化により農業が続けられなくなる農家も増えています。かけがえのない地域の農業を守ること、兄弟3人がそれぞれ経営していくことを考えると、「米の面積も拡大し、所得の向上を図りたい。」とのこと。

さらに現在、学校給食用にゴボウやニンジンを出荷しているそうですが、「地元の皆さんに、地元の野菜をたくさん食べてもらいたいです。」と語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

栽培技術等は、技術的に優れた農家1人にしぼって教えてもらうことが大事。いろんな人に聞くと、人によって考え方が違うので、うまくいかないことが多いです。また、何事にも信念を持って取り組むことが大切だと思います。